

# ミニトマト 収量2割増

島根県農業技術センターは、ミニトマトの養液栽培で二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を局所施用すると、可販果収量がおよそ2割増えることを確かめた。局所施用でミニトマトの群落内を外気と同じCO<sub>2</sub>濃度にするこことで着果数、果重が増加。販売可能な果実が増えることで、所得増が期待できる。

## CO<sub>2</sub>局所施用 外気と同濃度に

水田園芸推進と担い手育成で取り組む四つの研究を報告した2020年度の試験研究成果発表会で発表した。

栽培研究部野菜科の椋重芳専門研究員が「水田ミニトマトの多収、安定技術」をテーマに、CO<sub>2</sub>の局所施用による収量アップの有効性を報告。

光合成に必要なCO<sub>2</sub>の濃度は、外気では約400ppmだが、晴天時のハウ

ス内は、天窓と側窓を開けても、植物の群落内は300ppm未満に減少する。

試験ではミニトマトの養液栽培で、群落内のCO<sub>2</sub>濃度を外気と同じようになるよう、液化炭酸ガスをチューブで局所施用した。

2月定植の半促制栽培と7月定植の抑制栽培で収量、着果数などを分析。半促成栽培は可販果収量の果実数と果重が増

加し、対象区と比べて施用区は収量が26%増えた。抑制栽培では主に果実数が増加し、収量は12%増、通年で19%増となり、局所施用の有効性を示した。

また施用区では肥料の吸収量が増加。今後は、品種による違いや肥培管理の条件、コスト分析などを進める。

発表会は、新型コロナウイルス対策として、出雲市の同センターと6会場をリモートで結び、開催。生産者や県、関係団体の職員ら約150人が参加した。

（島根）

### 養液栽培で成果

島根県農業技術センター